

写真は、教材室に眠っていた記録用アルバムから見つけました。閉校する前に、保護者・地域の皆様にお見せする機会を作りたいと、協賛会の方々とお話しています。楽しみにしてください。

別海町立西春別中学校 学校だより 第7号 令和7年9月30日発行
発行責任者 校長 綾野正巳

ことと

50周年記念樹イチイを植える作業写真です。

平成12年 校内マラソン大会 気迫が伝わる1枚です



6年4組が私の原点



西春別中学校長 綾野 正巳

今から45年前、私は根室市立北斗小学校の6年4組に在籍していました。数か月前の新聞で、根室市の人口がついに中標津町に抜かれたことを知りましたが、当時の根室市の小学校には子どもたちがあふれていました。40人以上の学級が5クラス、全校生徒が約1200人。夏の全校集会はグラウンド、冬は体育館で、隙間がないほどの箱詰め状態でした。

もし私が6年4組でなければ、こうして学校だよりの巻頭言を書くこともなかったかもしれません。教員を志すきっかけをくれたのは、小学校5・6年生のときの担任の先生でした。ベテランの先生ではなく、大学を出たばかりの22歳の若い先生。授業が上手いというよりも、とにかく子どもたちに寄り添い、よく遊んでくれる先生でした。

野球しか知らなかった私たちにサッカーを教えてくださいました。放課後は少年野球があったため、朝7時過ぎには学校へ行き、カバンを外に置いたままグラウンドでサッカーをして遊んでいました。今の時代的では考えにくいことかもしれませんが、先生の家によく遊びに行きました。何度か泊まったこともあります。みんなでテーブルを囲み、夜中までトランプ（大富豪）をして遊び、狭い部屋に布団を敷いて6~7人でぎゅうぎゅうになりながら、怪談話をして眠りました。釣りを教えてくれたのも先生でした。チカ・コマイ・カレイ・ヤマメ…。今思えば、貴重な日曜日を私たちのために費やしてくれていたのだと、感謝の気持ちでいっぱいです。釣りに行くたびに、根室の自然の豊かさと、それを大切にすることを教えてもらいました。卒業式の日、教室でギターを弾いて「贈る言葉」を歌う先生の姿に涙し、私もギターを始めました。（全然上達しませんでした。若い頃は私も子どもたちの前で歌っていました。）

中学生になってからも、年に数回先生の家遊びに行っていました。高校1年の時には先生は道南へ転勤されましたが、高校3年生の夏休みには会いに来てくれて、仲間たちと先生の車にテントを積み、道東釣り紀行に出かけました。

私も多感な高校生活を満喫し、バンドブームの波にも思いっきり乗っかり、「将来はみんなでデビューしようぜ!」と言っていたのもほんの束の間、すぐに厳しい現実気付、真剣に将来のことを考えたとき、あの先生と同じ教育大学に進むことを決意し、麻雀仲間との縁を断ち、勉強に集中して何とか合格することができました。

残念ながら、憧れた先生のようになれたとは思っていませんが、最初に受けもった3年生は、20人と少人数だったため、学級行事と称して、保護者の協力を得て、子どもたちが私の教員住宅に寝袋を持ち寄り、お泊り会をしたこともあります。6年生を担当したときは、保護者も一緒に羅臼岳登山やキャンプを行いました。次の学校へ転勤してからは、時代や地域の実情でそうした活動は難しくなりましたが、教頭になるまで少年野球に携わってきたのは、教室以外でも子どもたちと関わりたい、自分がしてもらったことを出会った子どもたちにも返したいという思いがあったからです。

その先生と私だけが特別に深くかかわっていたわけではありません。今でも、連絡を取り合っている仲間がいたようで、ライングループができ、話が盛り上がり、何と、10月11日根室で45年ぶりに6年4組のクラス会が開催されることになりました。まさかこの歳になってこんな機会が来るとは思ってもいませんでした。先生の偉大さとスマホが発達した社会に感謝です。

今は、コンプライアンスの観点から、昔と同じようなことはできませんが、子どもたちが学校で過ごす仲間や先生との時間は、ひとり一人の将来にとってかけがえのない宝物になると信じています。西春別中学校が閉校となっても、そこで過ごした日々の思い出は、決して色褪せることはありません。18日に行われる西春別中学校「文化祭」も素敵な思い出の1ページになることを期待しています。